



お母さんの羽の中はあったかいよ
— コハクチョウ —



大和市民活動センター[拠点やまと] 第35号 2009年12月21日発行



絵: 上当イト「望郷 徳之島の海岸」

現在 102 歳の上当イトさんは 60 歳まで横浜で美容院を経営。その後、隠居のためにふるさとの徳之島(鹿児島県)に戻ったが、何もしないで隠居なんてもったいないと思い、島じゅうを周って見て、島に無かったレコード店を開店。80 歳までの 20 年間レコード店を経営。その後、お孫さんの住む大和市に移ってきて、82 歳まで組紐を習い、5 人の孫娘にそれぞれ 2 本ずつ帯締めを形見としてプレゼント。83 歳から始めたちぎり絵は 5 年くらいで教授の資格を得たが、もう定年の年齢を過ぎていたので職業にはならなかった、と茶目っ気たっぷりに話してくれました。「好きなことを真面目にやっていたら、生命につながる」と 102 歳を過ぎても創作意欲が衰えていない。「この大和の街が大好き」「ひとり暮らしが一番」と言い切れる健康な心と体。前向きに生きることの素晴らしさを教えていただきました。

あこの山の麓の小高いところに私の家があったのよ。見下ろすと、きび畑とパイナップル畑が広がっていた、と懐かしそうに話してくれました。左下に描かれているのはソテツの実とハイビスカスの花。いかにも明るい南国のイメージの絵です。

*この表紙の絵は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

センターからのお知らせ

- 12/28(月)午後から「センター」の大掃除です。助っ人よろしく!
- 12/29(火)～1/3(日)まで休館です。



<送付の際、同封されているご案内>

- ・連続共育セミナー1/23(土)実施 第 27 回「フィンランドの安心の子育てを伝えたい」のお知らせ
- ・センターの大掃除と年末、年始の休館のお知らせ

「大和市をもっと知りたい」を11月30日(月)に開催しました。

大和ってすごい!

暮らしに役立ついきいき情報誌「リベルタ」編集部編集長の丸山佐和子さんのお話で知ることができました。

☆☆☆ こんなところがすごい ☆☆☆

- その1. うまい・やすい・早い B級グルメがすごい!
個性のある個店がなくなるとあじわいなくなる。
- その2. 洗練された味やサービスが地元で楽しめる!
都会の味が地元で味わえる。また、地元の味が都会の味になっている。
- その3. 度胸とアイデア、オリジナリティのある企業がある!
- その4. 目指すべき“なにか”があれば大和はアクセスしやすい。
- その5. 大和市に有名人! 大勢いますね~
- その6. 市民の力のすごさ! 市民活動センターの登録団体を見れば納得です。

私たちが大和の“すごいところ”を探しましょう。



取材から見てきた大和市は懐が深く、“やまとっこ”の丸山さんが誇れるすごい! 大和市でした。

お話の後、参加者で大和のすごいところを出し合いましたが、やはり何といっても“人”で一致。次から次へと“すごい人”の名前が出てきて、もう、大変。PART6、PART7のご指名まで出て、お開きになりました。続きを楽しみにしてください。(関根孝子)

「おいしい大和を知りたい」を12月19日(土)に開催しました。

大和はおいしい? YES,おいしいです。

大和の推奨品と“わたしのお奨め品”をテーブルいっぱいにならべ、いつもの会議室とは思えないパーティー会場となりました。引っ越してらした方が二人参加され、和やかな雰囲気ですぐにうちとけられた様子に、ホッとしました。地域デビューは成功のようです。人はおいしいお酒とおいしい食べ物があって、語り合える仲間がいると、こうもニコニコ顔になれるのだ、と実感しました。

マドレーヌ、最中、湘南ポテト、メンチカツ、みんなおいしかったです。おみやげは絶対、“大和産”にしま〜す。



★★★★ちょっとひとこと★★★★
大和市の推奨品が掲載されているカレンダーが大和市観光協会にあります。

大和産のお酒とワイン、うまかったよ。つまみも上等。仲間は最高! あ〜、いい気分だね。



年忘れ
笑顔笑顔の
熟年期
(修)

参加した人たちのうれしい感想です。

- ・市民活動センターって何なのかな? どんなことをしているのかな、と思い、参加してみました。皆、楽しそうでとてもいい雰囲気、楽しいひと時を過ごせました。ありがとうございました。(古瀬村節子)
- ・メンチカツ、パウンドケーキ、湘南ポテト、芋ようかんも絶品。鶴舞の里ワインもおいしく、大和の品のおいさを再確認しました。(三浦カツ子)
- ・大和市の名品や銘酒を飲んで食べて、ざっくばらんに語り、楽しかったです。スタッフの皆さんの“歓待”に感謝します。(佐藤寿昭)
- ・顔を覚えていただきたく参加しましたが、何か役に立てればと思えるようになりました。楽しくいろいろなことに活動できるよう頑張ります。(堺八郎)

「センター」のある日ある時

11月27日(金)晴れ

やまとボランティア総合案内所を訪れた人たちのための市民活動見学会が実施された。15名の人が障害者自立支援センター、泉の森しらかしの家に続いて市民活動センターに来館。センターの運営などについて関根会長が説明。何かボランティア活動を、と思っただけの参加のみなさん。はじめの一歩はどちらから踏み出すのでしょうか?

次の連続共育セミナー第(27)回は
「フィンランドの安心の子育てを伝えたい」

とき:2010年1月23日(土)14:00~16:00

ところ:大和市民活動センター会議室

ゲスト:子ども環境ライター/編集の小杉皓男さん
北方美穂さん

日本は今、子育てがしにくい国になっています。学力世界一の国、フィンランドで子育て中の日本人は「安心の子育て」だと話してくれました。子どもの豊かな育ちが保障されている姿や仕組みを、フィンランドの取材からお伝えします。

市民活動の現場から

「わが街・やまと」ドラマティックな絵画展

11/21(土)～23(月・祝)の3日間で「見て、聞いて、体感した人」は1,200人

ドラマティックカンパニーYamato50は演劇、音楽、ダンス、絵画など、素晴らしい才能にあふれた市民を発掘して広く紹介しようと活動をしています。イオンホールにおいて市制施行50周年記念協賛事業・市民活動推進補助金事業の「わが街やまと・ドラマティックな絵画展」を開催しました。及川正通さん、高部哲也さん、徳富喜翔さんという大和市ゆかりの3名のプロのアーティストの作品と市民から公募した作品の展示、映画「わが街やまと」の上映、ミニプラネタリウム作り、及川さんの絵画教室、さらに気に入った市民の絵に来場者に投票してもらうコンテスト。来場者とスタッフの間に和やかなコミュニケーションが自然に生まれ、私たちが夢見たステキな絵画展になりました。(ドラマティックカンパニーYamato50 副代表 千葉真理)



コンテストで受賞された方たちです。

- ☆「わが街・やまと」グランプリ…「私と未来(優愛)」原 章子さん
- ☆審査員特別賞…「ヤマト☆ロゴガール」上野 理子さん
- ☆Yamato50賞…「やまとの食育 りんごと暮らす1年～下鶴間のりんご園にて～」間山世津子さん

* 絵画展の様子は H. P. に詳しく載っています。
<http://www.yamato50.com>



「このゆびとまれ！」ファイナル

12/5(土) 中・高校生が作ったラジオをお届け



冷たい雨の降る中、梶原君(柏木学園高校2年生)、細川君(厚木高校2年生)とスタッフの3人が、「げんきステーションより道一休」でデイサービスを受けているお年寄りに「FM ラジオ」を届けました。夏休みに「科学探検隊」のご指導のもとに作ったラジオ12台です。

伺った時間はお昼寝の時間帯で、お昼寝をしている方、テレビを見ている方とまちまちでした。3人は早速おしゃべりの輪の中に入り、厚木高校出身のお年寄りがひとりいらして、昔の厚木高校の様子や先生の話に花が咲きました。



細川君が昔の厚木高校のことに詳しいのに驚きました。お昼寝タイムが終り、お年寄りひとりひとりにラジオをお渡しし、スイッチの入れ方や音の強弱などを説明しました。「雑音だけしか入らない」との声で高校生2人が紐状になっているアンテナを微妙に動かし、少しでも電波の入る所を一生懸命に探しましたが、健闘の甲斐もなく、何台かは雑音だけでした。「自宅で電波の入る所を探して聞いて下さい。」と話し、お別れしました。寒いなか玄関まで見送りにきてくれたお年寄りもいました。

(拠点やまと 櫻井貞代)

「協働事業の取り組み」～市民活動センターの場合～

11/16(月)市民活動課の職員2人と

【拠点やまと】の関根会長がFMやまとに出演

市民活動センターはどのようにして生まれましたか…

- ・市民活動の実態調査から“場所”や“資源”の必要性が明らかになり、「新しい公共を創造する市民活動推条例」に基づいて、社会資源の充実を図るための「協働の拠点」として市民活動センターが生まれました。
- ・市民活動団体同士が手を取り合って活動できる、そんな場をつくらうと、築30年のプレハブの屋根のゴミを払い落とし、塗装協会や準備会の皆さんのボランティア作業で、手づくりのセンターが出来上がりました。

市民活動センターの運営は…

- ・運営は市民等が担うという条例に則って「協働の拠点運営委員会」が運営。現在は「拠点やまと」が担っている。
- ・市民活動の“交流”、“共育”と“資源を社会に開く”ことを軸に運営をしています。

ボランティア総合案内所とは…

- ・市民活動課がボランティア活動に関する相談を受け付けています。

12月16日(水) くもり

[拠点やまと]の小杉さんが講師の「実践編集ミニ塾」の第30回を開催。小杉さんあての絵手紙も教材に使われました。偶然、作成者の岡島順子さんが来館されたので、「あの手この手」に掲載させていただくことを、了承していただきました。



岡島順子さんの
絵手紙

ラジオに出演した皆さんの感想は…

- ★カッコーフェスタ'09に初めて参加しました。今後ともよろしく願います。(市川)
- ★市民活動課も拠点やまとの皆さんとっしょにこれからも“協働”でひろがっていきたいと思います。(山本)
- ★センターも「ボランティア総合案内所」の窓口のひとつとして、これからも活動を続けます。(関根)
- ★ボランティアは「してあげるのではなく、自分自身が楽しく」ですね。(パーソナリティのジョニーさん)

第 89 回 ~世代を超えた絆が~

12/1(火)<引地川水とみどりの会>

2003年、引地川に自転車が落ちているのを見て、3人で引き上げようとしたことが活動の始まりでした。現在は小学生から70歳代まで35名のメンバーが活動しています。「川にゴミが落ちているから、拾って川を綺麗にしてくちゃ」とメンバーのみんなが同じ目的を持ち、同じ方向に進んで行くことが大事で、世代を超えた絆ができてるのが本当にうれしい！メンバーに感謝している、と満悦の笑みで語った五味さん。毎年、清掃を始める3月の1週間くらい前に、スタッフ3~4人で安全調査を行います。川の様子は毎年変わるので、計測棒(棒に目盛がふってある)で川の深さを測り、「この部分は水深〇cm」「60cm以上は危険(黄)」「80cmはさらに危険(赤)」と毎年地図に落としていきます。実際の清掃作業の時、メンバーに的確な指示や注意ができます。大変地味な清掃活動を安全に楽しくやるための事前活動がもっとも大事だと、語ってくれました。

「朝ラジ☆ホットスクランブル」は再放送があります。
当日の15:00~16:00 22:00~23:00

ラジオを聴いたら感想をFAX、メールで[FMやまと]へ。

FAX :046-265-2777

E-mail :morning@fmyamato.co.jp

★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★やまと

今年、私はサポーターからスタッフになりました。幾つもの団体に首を突っ込んできました。「ここ市民活動センターに来ると色々なヒントを得られます。」PR文句ではありません。これは私自身に対してです。(望月則男)

今年1年はセンターの仕事は殆ど協力できず、特に後半の3ヶ月を休業した。そんな中であって参加できたのは、3月の「やまと国際交流フェスティバル」と8月の「みんなで食べようバーベキュー」くらいです。(松村襄)

これまでにない程時間が過ぎるのが早く感じた1年でした。来年は1日1日を大切に充実して過ごしたい…目標です。(中山みゆき)

年初に整理整頓したはずが、また大荷物をため込んでしまいました。いつも優先順位を考えながらの生活は周囲に迷惑をかけているな〜と反省しています。抜けないよう、雑にならないように整理整頓、心がけます。(関根孝子)

久しぶりの着物姿。和心をゆすぶる。めんどろだからと遠のいていた。めんどろだから逃げていた生活をあらためて反省することしきり。(村山真弓)

熱血編集後記

「今年の1年は？」



寅さんにバトンタッチ。
来年はいい年になるといいね。(丑)

今年は友達の突然の死に遭遇しました。いろいろな事を考え、仲間と偲び、彼女との楽しかった数々の思い出を数えて、忘れてくても忘れられない悲しい夏がありました。これからは彼女の笑顔だけを思い出していきたいです。(櫻井貞代)

*今号の用紙は黄色。センターのイチョウは駐車場を黄色一色に染め、美しい樹の姿で春を待ちます。

第 90 回~地域のたまり場、縁側としての必要性~

12/15(火)<なんでもプラス地域ネット>

自治会の役員を6年経験した今井さんが、住みよいまちづくりには自治会ともう一つ何かが必要だ、と思って立ち上げました、と語り始めました。最初、お手伝いくらいだったかと思って参加しましたが、いろいろと関わっていくうちに、人とのつながりがすごく大切だと思ふようになった。お年寄りのお話相手をして、その人の人生を知り、その重みを感じて、お金では得ることのできない経験をしています。誰かから押し付けられるのではなく、自由な意志で自分がやれることが生かされる活動をしている。お互いを信頼し、尊敬し合い、「地域のたまり場」「縁側」としての役割を担う。「この町に暮らしてよかった」と思える環境作りをしたいなど、次から次へと皆さん笑顔で語り、スタジオは楽しい笑い声に包まれ、番組が進行していきました。

<これからの出演団体>

第 91 回 2010 年 1 / 5(火) カイロプラクティック普及会

第 92 回 1 / 19(火) ありがとうの和の輪

★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまと

12月3日(木)雨

「ワーカーズ・コレクティブ」代表の石原さんから電話があり、「あの手この手」の挨拶文をいつも感動しながら読んでいます、楽しみなよ。」と、話された。こんなうれしい電話は大歓迎です。

今年も歳の瀬を迎えた。地域社会に加わって2年半、多くの人と出会っている。スポーツ、趣味、そして市民活動センターとそれぞれの場にて、時間と空間をはしる話題は人生いろいろ。人との出会いを楽しみにしている。(浅見正明)

正に食べものの出口、排泄箇所の痛さに耐えた去年の12月、そして食べ物への入口、抜歯の激痛に唖った今年2009年の12月。思考できるという人間の特性も肉体の条件に左右されてしまうことを思い知らされた1年。身体大事。(小杉皓男)

膝の剥離骨折、手遅れに近かった虫垂炎、家の鍵とカシミヤの大判ストールの紛失と散々な年でしたが、いくつものステキな出会いがあったから、ま、いいか、と納得しよう。物欲から離れて…(石川美恵子)



[拠点やまと]が制作発行する
大和市民活動センターの広報紙・月刊「あの手 この手」。
12月21日付け第35号をお届けします。

「市」になったからと言って、それは「魔法のランプでも、打ち出の小槌（こづち）でもありません」「新市政の支柱は高い市民性」「愛市精神に裏うちされた高い市民性からやがて正しい市政運営の軌道がつけられ、あかるい市建設の原動力が生まれ、やがて『市政』という名にふさわしい内容をもつ明日の大和市の完成を期待することができます」（ゴチック体は引用）と、50年前「大和市」になったときの大和市長・高下重平さんのことば（上記ゴチック体）を「大和広報」第38号、1959（昭34）年市制施行記念特集号に見つけた。

大和市市制50周年記念事業として、つる舞の里歴史資料館では「大和誕生～明治・大正・昭和の大和市」企画展が開催（期間＝10/31～12/13）されていましたが、その資料展示の一部にこの「大和広報」があった。

この記事に「高い市民性」とあります。

渋谷村と大和町が合併し、1959（昭34）年2月1日に市制施行。今までの「村民」と「町民」がこの日を期して、ある意味ではオートマチックに「市民」になってしまったわけですが、「市民性」、これは一朝一夕には獲得できない類（たぐい）のものですよと、当時の市長・高下重平さんはメッセージされたものだと私は解釈しました。

それから50年。半世紀を経ます。市政と市民がお互いにその「高い市民性」を醸成していく期間であったのかどうか、これにはさまざまな見解があると承知しながら、不断の「自治の意識と行動」がその「市民性」を支えていく大本なのではないかと私は思います。

市制施行から45年目の2004年、「大和市自治基本条例」公布。前文に『大きく和する』という願いをその名に込めた大和市では、市民一人ひとりが個人として尊重されること及び自らの意思と責任に基づいて自己決定することを自治の基本理念とし、安全で安心して暮らせる社会の実現に向けて努力を重ねていかなければなりません。』とあります。

今年の1年間は市制50周年記念イヤーでした。記念事業、協賛事業が毎月いくつも展開されました。それは「大和市」を意識する出来事でしたが、「自治の意識と行動」こそが「高い市民性」を得る保障なのだと「大和市自治基本条例」の前文は謳っているのだと思います。

2009/12/21 [拠点やまと]広報紙係・小杉 皓男 記

